

平成24年行政事業レビューシート

(農林水産省)

事業名	漁場環境・生物多様性保全総合対策事業のうち水産生物の生活史に対応した漁場環境形成事業		担当部局庁	水産庁		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度～平成26年度		担当課室	漁港漁場整備部 整備課		整備課長 高吉 晋吾		
会計区分	一般会計		施策名	⑮ 水産資源の回復				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	水産基本計画(平成19年3月20日閣議決定) 漁港漁場整備長期計画(平成19年6月8日閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	水産生物は成長段階に応じて広域的に移動することから、その生活史を踏まえた効果的な漁場整備を行うことが重要である。各成長段階に必要な環境を形成する手法を検討するとともに、海藻の食害生物や貧酸素水塊といった生活史の循環を阻害する要因の除去等の要素技術を開発する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	(1)モデル地域を選定し対象魚種の生活史の把握や効率的な環境形成手法の検討を広域的に行うほか、種苗放流・資源管理との連携について検討する。 (2)海藻の食害生物等漁場機能を阻害する要因の除去、貧酸素水塊の発生抑制対策、生物由来素材の積極的な利用促進、効果の低下した漁場機能の再生といった技術の開発と普及を行う。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		当初予算	—	66	74	68		
		補正予算	—	—	-4	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
	計	—	66	70	68			
	執行額	—	63	66				
	執行率(%)	—	96.5%	95.1%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	①主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量	成果実績	トン	1,825 (1,820)	1,782 (1,829)	1,665 (1,837)	1,837 (23)	
		達成度	%	99.4	97.3	90.6		
	②漁場機能の阻害要因の除去等による藻場回復	成果実績		—	—	—	—	
		達成度	%	—	—	—		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	①モデルの検討数	活動実績 (当初見込み)	検討・実証数	—	1 (1)	2 (2)	— (2)	
		②漁場機能の阻害要因の除去技術開発の実証数	活動実績 (当初見込み)	検討・実証数	—	18 (18)	18 (18)	— (18)
	単位当たりコスト	3,315,115(円/活動実績単位)		算出根拠	(23年度執行額:66,302,298円)÷(23年調査・検討実証数:20) 参考:過去2年度分コスト H22年度:3,332,597円			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	漁場環境・生物多様性保全総合対策事業費のうち水産生物の生活史に対応した漁場環境形成推進事業費	68百万円						
	計	68百万円						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	※類似事業名とその所管部局・府省名	
点検結果		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
	<p>・水産生物の生活史を考慮した新たな漁場整備手法である水産環境整備候補海域は全国に及んでいるものの、水産生物の生活史に関する知見やデータが不足している海域も多く、評価手法も不足しており、本格的な整備実施に向けては課題が残されている。そのため、海域評価手法の開発や阻害要因の除去技術を開発する本事業は、水産環境整備の推進に向けて、その意義は大きいものである。</p> <p>・事業の効率性に関しては、平成23年度、公募方法を見直す等の改善を図り複数者が応札したところであり、競争性が確保されている。</p> <p>・成果物については、開発・実証した技術・手法を「手引き」、「マニュアル」としてとりまとめ、地方公共団体や地元漁業者等に技術・手法の普及を図ることとしている。</p> <p>以上により、本事業においては事業の有効性、効率性、必要性等適切なものであり、今後においても引き続き適正な事業執行に努めて参りたい。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	—	平成23年行政事業レビュー	0345

※平成23年度実績を記入

農林水産省
66百万円

(1)

(1/2:共同提案)
【総合評価入札・委託】

D. (社)水産土木建設
技術センター
7百万円

E. (独)水産総合
研究センター
10百万円

F. (独)水産大学校
1百万円

G. (株)沿岸生態
系リサーチセン
ター
12百万円

H. (株)アルファ水
工コンサルタンツ
20百万円

委員会、専門部会の
運営、貧酸素水塊の
発生対策、生物由来
素材の積極的な利用
促進等

植食動物の効率
的な除去・防御技
術の
開発等

植食動物の生
活史段階におけ
る生態的特性の
把握

効果の低下し
た漁場機能
の再生

スラグ等による藻
場の再生技術の検
討

【再委託】

I. 大学(2校)
1百万円

植食魚類・空ウニの
利活用検討

【再委託】

J. 民間会社(2社)
2百万円

技術開発の補助業
務及び核藻場の維
持管理業務

【再委託】

K. (財)海洋生物環
境
研究所
3百万円

生分解性素材基本
特性試験等

【再委託】

L. (財)海洋生物環境
研究所
5百万円

鉄鋼スラグの
毒性試験

(1/2:共同提案)

(2) 【総合評価入札・委託】

A. (財)漁港漁場漁
村技術研究所
6百万円

委員会運営・既往知
見調査

B. (独)水産総合研
究センター
3百万円

流況シミュレーショ
ンによる孵化仔魚
分散予測

C. 株式会社シャトー
海洋調査
7百万円

対象魚種の生活史
調査

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を行
っているかにつ
いて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途 「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）	A.. (財)漁港漁場漁村技術研究所			F.水産大学校		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	人件費	技術者、研究者	4	旅費	現地調査他	0
		庶務・管理部門	1	消耗品	実験等機材類、試薬・薬品・用材類	1
	その他	旅費・会議開催経費	1	計		1
				G.(株)沿岸生態系リサーチセンター		
	計		6	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	B.(独)水産総合研究センター			人件費	技術者	5
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	委託費	(財)海洋生物環境研究所	3
	人件費	技術者、研究者	2	傭船費	使用船舶等経費	1
	その他	旅費・光熱水料	1	旅費	現地調査等	1
				消耗品	試験礁、空気ポンプ等	2
				計		12
	計		3	H.(株)アルファ水エコンサルタンツ		
	C.株式会社シャトー海洋調査			費 目	使 途	金 額 (百万円)
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	人件費	技術者、研究者、ダイバー	7
	人件費	技術者、研究者	3		庶務・管理部門	3
		庶務・管理部門	1	委託費	(財)海洋生物環境研究所	5
	材料費・分析費	ロープ、底質調査	2	消耗品	鉄分供給ユニット、空気ポンプ等	2
	旅費	東京ー大阪	1	旅費	現地調査	1
				諸経費	光熱水料、租税公課等	2
				計		20
	計		7	I.宇都宮大学		
	D.水産土木建設技術センター			費 目	使 途	金 額 (百万円)
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	研究調査費	空ウニの利活用検討経費	1
	人件費	技術者、研究者	3	計		1
	消耗品	イベント消耗品	2	J.(株)ベントス		
	委託費	鹿児島純心女子大学、宇都宮大学	1	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	その他	会議開催経費、諸経費	1	人件費	技術者	1
				消耗品	事務消耗品	
				計		1
	計		7	K.(財)海洋生物環境研究所		
	E.(独)水産総合研究センター			費 目	使 途	金 額 (百万円)
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	人件費	技術者	1
	人件費	研究支援職員	4	旅費	打合せ旅費等	1
	旅費	打ち合わせ、委員会、調査に係る旅費	2	消耗品	実験用品	1
	委託費	(株)ベントス、住友セメント(株)建材事業部	2	計		3
	傭船費	使用船舶等経費	1	L.(財)海洋生物環境研究所		
	消耗品	水中カメラ、潜水用具等	1	費 目	使 途	金 額 (百万円)
				人件費	研究員	2
	計		10	消耗品	試験用品	1
				分析費	毒性試験	1
				その他	諸経費	1
				計		5

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)漁港漁場漁村技術研究所	委員会運営、既往知見調査	6	2	92.40%

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)水産総合研究センター	流況シミュレーションによる孵化仔魚分散予測	3	2	92.40%

C.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)シャトー海洋調査	対象魚種の現地調査	7	2	92.40%

D.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(社)水産土木建設技術センター	委員会、専門部会の運営、貧酸素水塊の発生対策、生物由来素材の積極的な利用促進	7	2	96.15%

E.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)水産総合研究センター	植食動物の効果的な除去・防御技術の開発等	10	2	96.15%

F.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)水産大学校	植食動物の生活史段階における生態的特性の把握	1	2	96.15%

G.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)沿岸生態系リサーチセンター	効果の低下した漁場機能の再生	12	2	96.15%

H.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)アルファ水工コンサルタンツ	スラグ等による藻場の再生技術の検討	20	2	96.15%

I.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	宇都宮大学	空ウニの利活用検討	0.5	随意契約	
2	鹿児島純心女子大学	植植魚類の利活用検討	0.2	随意契約	

J.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ベントス	植食動物の効率的な除去・防御技術と開発	1	1	
2	住友セメント(株)建材事業部	核藻場の維持管理業務	1	1	

K.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)海洋生物環境研究所	正分解性素材基本特性試験、植食性動物の生活史段階における生態特性試験	3	随意契約	

L.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)海洋生物環境研究所	鉄鋼スラグの毒性試験	5	随意契約	